



# 長期未整備都市計画公園区域内 住宅地の将来シナリオの検討

-名古屋市名東区藤巻町における  
住民主導のまちづくり-

名古屋大学大学院 環境学研究科  
都市環境学専攻 村山研究室  
博士課程 前期2年 光山茜

### 背景

#### 宅地型長期未整備都市計画公園における問題

- ・ 住み続けたい住民と公園にしたい行政の意見が異なる
- ・ 公園事業着手まで莫大な時間と費用が必要となる
- ・ 住民の将来の見通しが立たない、まちの過疎化

#### 都市計画を見直す時代

都市計画の見直しの事例

(ex. 名古屋市、大阪市、東京都…)

#### 名古屋市の財政難

- ・ 来る災害対策による、公園事業予算縮小の見込み

#### 住民参加型まちづくり

- ・ 都市計画提案制度 (2002 年)
- ・ 名古屋市都市マスタープランによる「地域まちづくり」の推進
- ・ 住民主導のまちづくりの動き  
⇒ 藤巻町 (都市計画公園区域内住宅地) における まちづくり検討チーム」の活動

宅地型長期未整備都市計画公園における都市計画の見直しを検討する余地がある

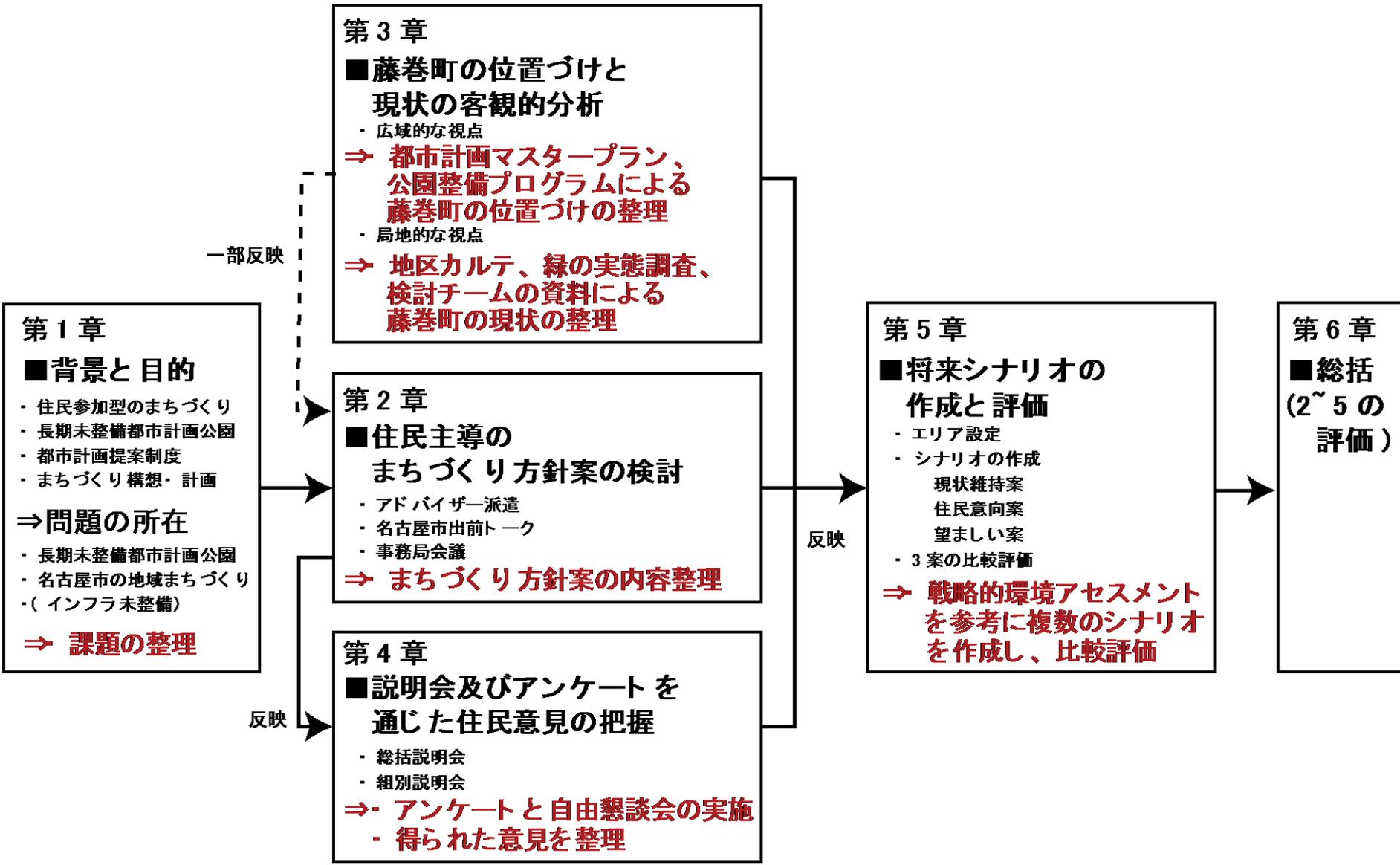
### 目的



検討チームによって検討された「まちづくり方針案」に  
町内外の客観的情報と住民の主観的意見を加味して藤巻町の  
複数の将来シナリオを作成・評価し “望ましい案”を導出する

# 1-2. 研究の方法と構成

1. はじめに



## ■住民参加型まちづくり

藤川ら (2004)、林崎ら (2007) の研究

- ・ 住民参加型まちづくり参加のプロセスを整理
- ・ 住民主体で都市計画提案制度を用いた事例は少ないことを指摘

→本研究は**住民提案型**で**都市計画提案制度を用いる前段階の住民活動**を扱う。

## ■長期未整備都市計画道路

梅宮ら (2007) の研究

- ・ 長期未整備都市計画道路における見直しに関する合意形成過程を扱った。

→**長期未整備都市計画公園**における都市計画の見直しに関する研究は無い。

⇒長期未整備都市計画公園の課題の解決に向けて住民主導のまちづくりに、客観的・主観的な情報を加味し **将来シナリオを導出しプロセスの例を示す**  
本研究は先駆的である。

## 2-1 研究对象地

- ・名古屋市名東区藤巻町  
(名古屋の東部丘陵地)
- ・面積約30ha
- ・201世帯、431人
- ・土地利用...樹林地50%、住宅地22%
- ・都市計画公園 東山公園(藤巻地区)  
第一種低層住居専用地域、風致地区



## 2-2-3. まちづくり方針案

## 2.住民主導のまちづくり方針案の検討

### ■概要

- ・ **まちづくり検討チームにより作成された。**
- ・ **まちづくり構想・計画を策定する前段階として、まちづくりの方針を考えるための素案**  
←住民に検討チームの活動で得た**情報を開示し、意見収集するため**  
(2013年9月22日に検討チームより全戸配布)

### ■項目

- ①冊子の目的と今後のスケジュール、
- ②検討チームの活動経緯と学んだこと
- ③区域ごとの特色の検討と主要な状況解説
- ④検討チームが活動を通じて到達した判断
- ⑤外部関係者の関心事
- ⑥組別説明会で特に話し合いたい項目

### ■目標

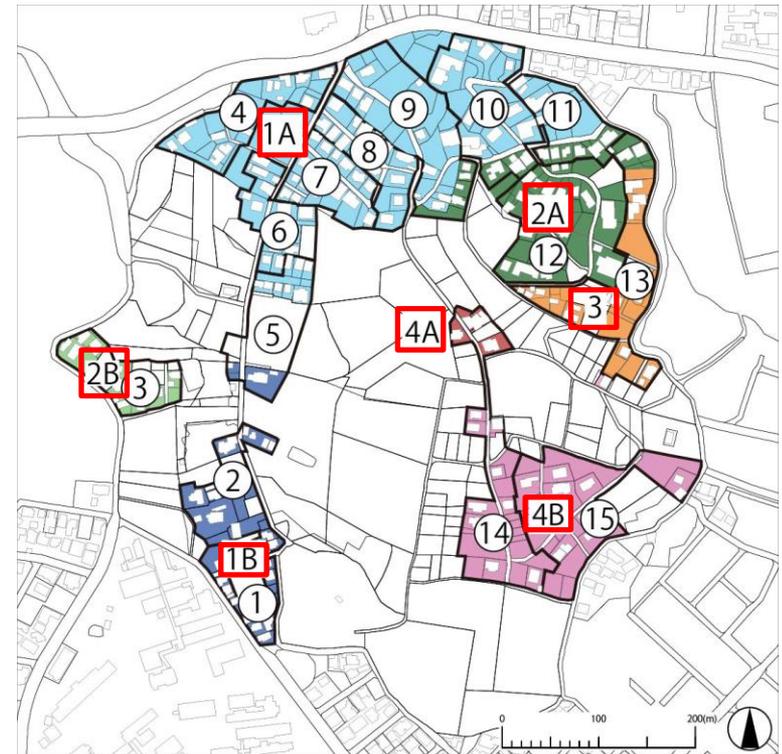
- ・ **制度的に将来永住できるまち**
- ・ **生活インフラが整っているまち**
- ・ **周辺施設の利用に日常・非常時に支障がないまち**

### ■方針

町内を地域特性に基づき **7つのエリア**

(1A,1B,2A,2B,3,4A,4B) ごとに将来像を検討する

検討チームによって検討された7つのエリア



# 3-1. 広域的な視点

# 3. 藤巻町の位置づけと現状の客観的分析

⇒ 広域的な視点から藤巻町の位置づけを整理

## ■ 名古屋市都市計画マスタープランにおける位置づけ

駅そばまちづくり：集約連携型都市構造の実現を目指す。

「駅そば生活圏」において都市機能の強化を推進。

⇒ 藤巻町は駅そば圏域外であるため人口増加を目指す地域ではない。

## ■ 緑のネットワーク

名古屋市の定義する環境軸（緑と水の回廊ゾーン）に位置する。

北西の東山公園と南東の植田川を繋ぐ地域である。

## ■ 公園事業と名古屋市の財政

区域内に買収が必要な民有地は 1,150ha / 2,800ha にあたる。

土地開発公社による先行取得地を市が再取得する必要がある。

⇒ 厳しい財政状況の中、土地の取得が進捗しない。

## ■ 東山森づくりの会が目指す里山

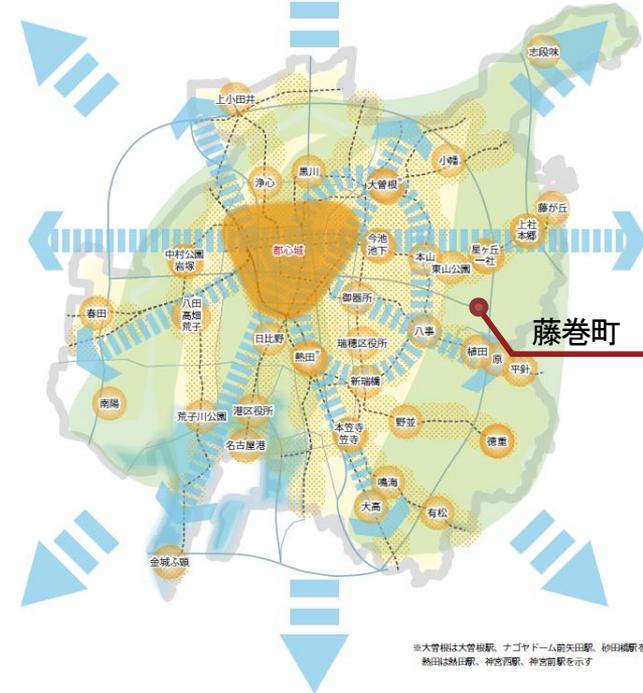
「くらしの森」(平和公園南部)では田畑等、里山の風景を再現。

住宅の庭木は生物多様性に寄与する。

住民には緑の管理を期待出来る。

⇒ 里山において低層住宅は地域資源と位置づける。

ゾーニング  
(名古屋市都市マスタープラン)



# 3-1. 局地的な視点

# 3. 藤巻町の位置づけと現状の客観的分析

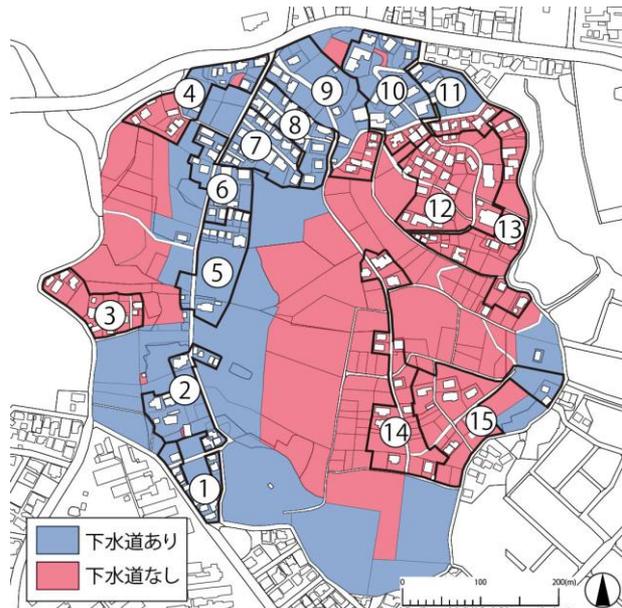
⇒ 局地的な視点から藤巻町の現状を整理

- ・ 下水道
- ・ 道路舗装
- ・ インフラの整備見込み
- ・ 住戸密度
- ・ 周囲の緑の量
- ・ 周囲の緑の類型

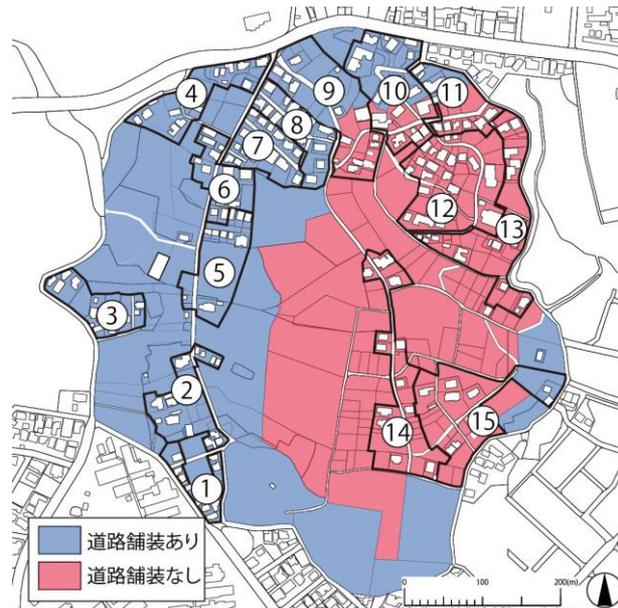
住民ヒアリング  
住民会議資料

緑の実態調査

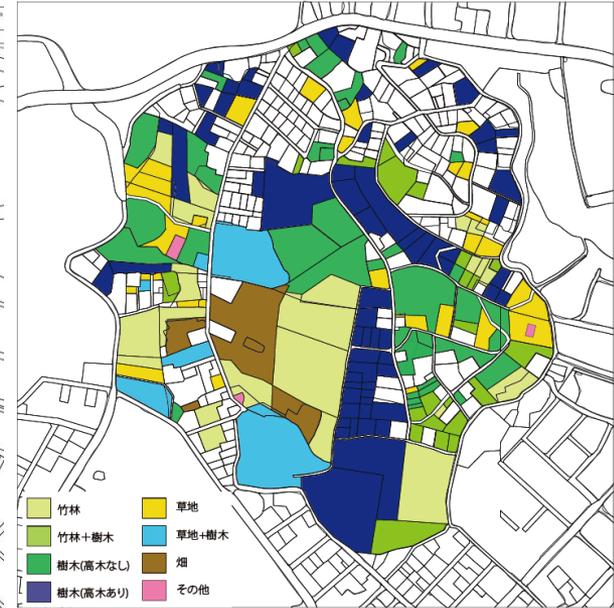
緑の実態調査の様子



下水道整備状況



道路舗装整備状況



緑の類型化

# 3-1. 局地的な視点

# 3. 藤巻町の位置づけと現状の客観的分析

⇒ 藤巻町の組ごとの現状を6項目ごとに整理

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
エリア	1B		2B	1A								2A	3	4A	4B	
道路舗装	あり	あり	あり (一部なし)	あり	あり	あり	あり	あり	あり (一部なし)	あり	あり (一部なし)	あり (一部なし)	なし	なし	なし	
下水道	あり	あり	なし	あり (一部なし)	あり	あり	あり	あり	あり (一部なし)	あり (一部なし)	あり (一部なし)	なし	なし	なし	なし	
整備見込み	—	—	○ (市道)	○ (市道)	—	—	—	—	× (私道)	× (私道)	× (私道)	× (私道)	× (私道)	△ (市道 ○、	× (私道)	
住戸密度	密	やや密	やや密	やや密	密(飛び地あり)	密	密	密	やや疎 (空き地あり)	やや密	やや密	やや密	やや疎	疎	やや疎	
周囲の緑の量	やや多い	やや多い	やや多い	やや多い	やや多い	普通	やや少ない	少ない	やや少ない	少ない	少ない	普通	やや多い	多い	多い	
緑の類型	竹林、公園	竹林、畑、果樹園	樹木、竹林	樹木(高木あり)	公園管理地、樹木、竹林	樹木(高木あり)	樹木(高木あり)	樹木(高木あり)	樹木(高木あり)	樹木(高木あり)	樹木(高木あり)	樹木(高木あり)	竹林+樹木、樹木(高木あり)	新池、樹木(高木あり)	公園管理地、樹木(高木あり)	竹林、樹木

# 4-1. 説明会の概要 4.説明会とアンケートを通じた住民意見の把握

## 総括説明会・組別説明会

総括説明会(2013.10.13)

…48 世帯 54 名参加

組別説明会(2013.10.17~11.29)

…計 101 世帯 107 名参加(約 60%)

### 内容

#### ■まちづくり方針案の説明

#### ■インタビュー形式の対談(検討チームの代表者とアドバイザー 2 名)

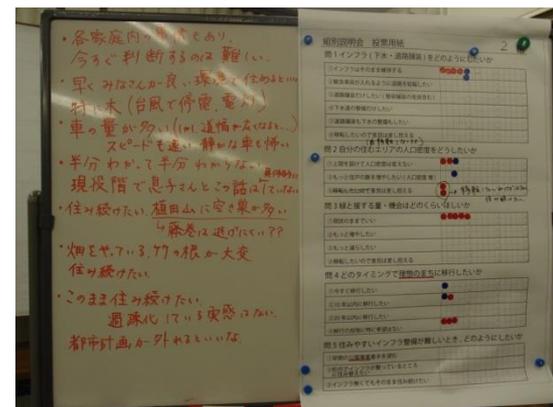
- ・名古屋市都市計画マスタープランの内容と藤巻町の位置づけ
- ・住民主導の地域まちづくりが上手くいくためにどうすればよいか

#### ■投票式アンケート(まちづくり方針案の内容から作成)

- ①インフラをどのようにしたいか
- ②人口密度はどのようにしたいか
- ③緑と接する機会・量はどのようにしたいか
- ④理想のまちに移行するタイミングはどのようにしたいか
- ⑤住みよいインフラ整備が難しいときどのようにしたいか

#### ■自由懇談会

参加者全員から意見を収集した。



# 4-2.組別説明会アンケート 4.説明会とアンケートを通じた住民意見の把握

⇒組別説明会アンケート結果から  
住民の意向を整理

- ・ インフラ未整備区域 (2A,2B,3,4A,4B) ではインフラの改善を、インフラ整備区域 (1A,1B) では現状維持を望んだ。
- ・ 緑の量や触れる機会、人口密度に関しては全エリアで現状維持。
- ・ 理想のまちに移行するタイミングは各組で意見が分かれた。

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15				
エリア	1B		2B	1A								2A	3	4A	4B				
[問1] インフラを どうしたいか	第1希望	現状維持 (57.1%)	現状維持 (100%)	下水道整備のみ(50%)	現状維持 (66.7%)	現状維持 (50%)	現状維持 (85.7%)	現状維持 (85.7%)	現状維持 (100%)	道路・下水整備(65%)	現状維持 (37.5%)	道路・下水整備(100%)	道路・下水整備(44.4%)	下水道整備のみ(37.5%)	道路・下水整備(66.7%)	道路・下水整備(87.5%)			
	第2希望	道路拡幅 (42.8%)		現状維持 (25%)	道路改良 (16.7%)	道路拡幅 (50%)	道路拡幅 (14.2%)	道路拡幅 (14.2%)		道路拡幅 (35%)	下水道整備のみ(37.5%)		現状維持 (22.2%)	道路舗装のみ(25%)	下水道整備のみ(33.3%)	下水道整備のみ(12.5%)			
	第3希望			道路・下水整備(25%)	下水道整備のみ(16.7%)						道路拡幅 (12.5%)		道路拡幅 (22.2%)	道路拡幅 (12.5%)					
	第4希望										意見なし (12.5%)		下水道整備のみ(11.1%)	道路・下水整備(12.5%)					
[問2] インフラ整備 が難しいとき どうしたいか	該当者	出席者の50%		出席者の17%		出席者の17%								出席者の77.8%		出席者の100%		出席者の100%	
	第1希望			そのまますま住む(75%)	公園事業着手(100%)									そのまますま住む(100%)	そのまますま住む(85.7%)	そのまますま住む(68.7%)	そのまますま住む(77.8%)	公園事業着手(75%)	
	第2希望			公園事業着手(25%)										町外移転 (25%)	公園事業着手(7.1%)	町内移転 (18.6%)	公園事業着手(11.1%)	そのまますま住む(25%)	
第3希望											町内移転 (7.1%)	公園事業着手(12.5%)	町内移転 (11.1%)						
[問3] 人口密度 どうしたいか	第1希望	変えない (71.4%)	変えない (50%)	変えない (75%)	変えない (66.7%)	変えない (55.6%)	変えない (76.9%)	変えない (71.4%)	変えない (66.7%)	増やす (61.1%)	変えない (87.5%)	変えない (33.3%)	変えない (88.9%)	変えない (81.3%)	変えない (77.8%)	変えない (64.3%)			
	第2希望	増やす (28.6%)	増やす (10%)	増やす (25%)	増やす (33.3%)	増やす (44.4%)	増やす (23%)	増やす (28.6%)	増やす (33.3%)	変えない (38.9%)	増やす (12.5%)	増やす (33.3%)	増やす (11.1%)	増やす (18.7%)	増やす (11.1%)	増やす (21.4%)			
	第3希望		意見なし (40%)									意見なし (33.3%)			意見なし (11.1%)	意見なし (14.3%)			
[問4] 緑の量・緑に 触れる機を どうしたいか	第1希望	現状維持 (85.7%)	現状維持 (100%)	現状維持 (100%)	現状維持 (100%)	現状維持 (90%)	現状維持 (42.9%)	現状維持 (100%)	現状維持 (100%)	現状維持 (77.8%)	現状維持 (75%)	現状維持 (66.7%)	現状維持 (55.6%)	現状維持 (75%)	現状維持 (88.9%)	現状維持 (77.8%)			
	第2希望	増やす (14.3%)				増やす (10%)	増やす (28.6%)			増やす (22.2%)	増やす (12.5%)		増やす (44.4%)	減らす(25%)	増やす (11.1%)	減らす (22.2%)			
	第3希望						減らす (28.6%)				意見なし (12.5%)								
[問5] 移行する タイミングを どうしたいか	第1希望	今すぐ (50%)	希望なし (60%)	今すぐ(75%)	今すぐ (66.7%)	希望なし (60%)	今すぐ (85.7%)	今すぐ (100%)	移行しない (66.7%)	10年以内 (44.4%)	10年以内 (50%)	希望なし (66.7%)	20年以内 (44.4%)	今すぐ (37.5%)	希望なし (66.7%)	今すぐ(75%)			
	第2希望	10年以内 (35.7%)	10年以内 (30%)	20年以内 (25%)	10年以内 (16.7%)	10年以内 (20%)	希望なし (14.3%)		今すぐ (33.3%)	今すぐ (33.3%)	希望なし (25%)	今すぐ (33.3%)	希望なし (44.4%)	希望なし (31.3%)	今すぐ (33.3%)	10年以内 (12.5%)			
	第3希望	20年以内 (14.3%)	今すぐ (10%)		希望なし (16.7%)	今すぐ(10%)				希望なし (22.2%)	今すぐ (12.5%)		移行しない (11.1%)	10年以内 (25%)		20年以内 (12.5%)			
	第4希望					20年以内 (10%)					20年以内 (12.5%)			20年以内 (6.2%)					

## ■エリアの再設定

組別説明会のアンケート 結果と町内の現状をもとに再設定

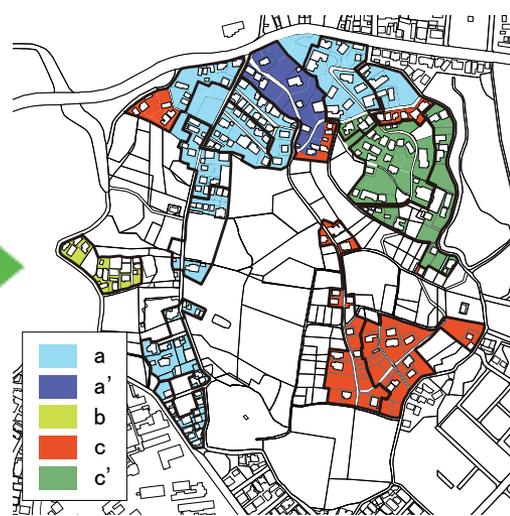
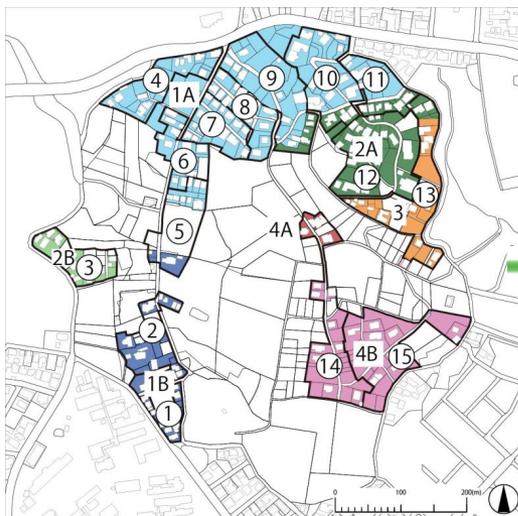
まちづくり検討チームの分類した  
7つのエリア (1A, 1B, 2A, 2B, 3, 4A, 4B)

再分類  
→

5つのエリア  
(a, a', b, c, c')

7つのエリア

5つのエリア



5つのエリアの現状

要素	現状
該当する組	1, 2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>■インフラ 都市型のインフラが道路舗装・下水道ともに完備されている。</li> <li>●人口密度 住戸同士が隣接しているため密だが、空家も見られる</li> <li>▲緑 樹林地は少なく、各住戸の庭木が主。</li> </ul>
該当する組	9
a'	<ul style="list-style-type: none"> <li>■インフラ 都市型のインフラが道路舗装・下水道ともに完備されている。</li> <li>●人口密度 住戸同士が隣接しているため密だが、空家・空き地も見られる</li> <li>▲緑 樹林地は少なく、各住戸の庭木が主。</li> </ul>
該当する組	3
b	<ul style="list-style-type: none"> <li>■インフラ 幅員のある道路に面しているが、下水道のみ整備されていない。関係道路が市道であるため今後の整備の見通しがある。</li> <li>●人口密度 住戸同士が隣接しているため密だが、空家も見られる</li> <li>▲緑 樹林地に囲まれているため緑に接する量・機会はやや多い</li> </ul>
該当する組	4', 10', 13
c	<ul style="list-style-type: none"> <li>■インフラ 道路舗装・下水道が未整備のエリア。私道の所有者との意見が一致せず、整備見込みは厳しい。</li> <li>●人口密度 あまり住戸が隣接しておらず、公有地があるためやや疎である。</li> <li>▲緑 樹林地に囲まれているため緑に接する量・機会は多い</li> </ul>
該当する組	9', 11', 12, 14, 15
c'	<ul style="list-style-type: none"> <li>■インフラ 道路舗装・下水道が未整備のエリア。私道の所有者との意見が一致せず、整備見込みは厳しい。</li> <li>●人口密度 住戸が隣接しているが、公有地、空家があるためやや密である。</li> <li>▲緑 樹林地と各住戸の庭木が主で、池があるため緑に接する量・機会はやや多い</li> </ul>

4, 9, 10, 11 組に関してインフラが整備されていないエリアが一部含まれるため、新たにインフラの無いところのみそれぞれを 4', 9', 10', 11' と設定。

### ■シナリオの作成

⇒藤巻町の**客観的な現状** (3章)とアンケートによる**住民の意見** (4章)を用いて**インフラ、緑、人口密度**、について**3つの将来シナリオ**を作成。

(戦略的環境アセスメントのシステム分析を参考に)

### ■3つの将来シナリオ

「現状維持案」…◇現状を維持して住み続けるというシナリオ

「住民意向案」…◇アンケート結果から**住民の意向を最も尊重したシナリオ**

- ・ b,c,c' に都市型のインフラを導入

「望ましい案」…◇藤巻町の**客観的な現状** (3章)とアンケートによる**住民の意見** (4章)を照合して作成したシナリオ

- ・ インフラの改善と住宅地の存続を最優先した。
- ・ c,c' では公園区域内で最低限の環境共生インフラを整備した新しいタイプの**住宅地も含む公園として整備する方針**

※“将来”について

⇒説明会にて将来の設定について説明。

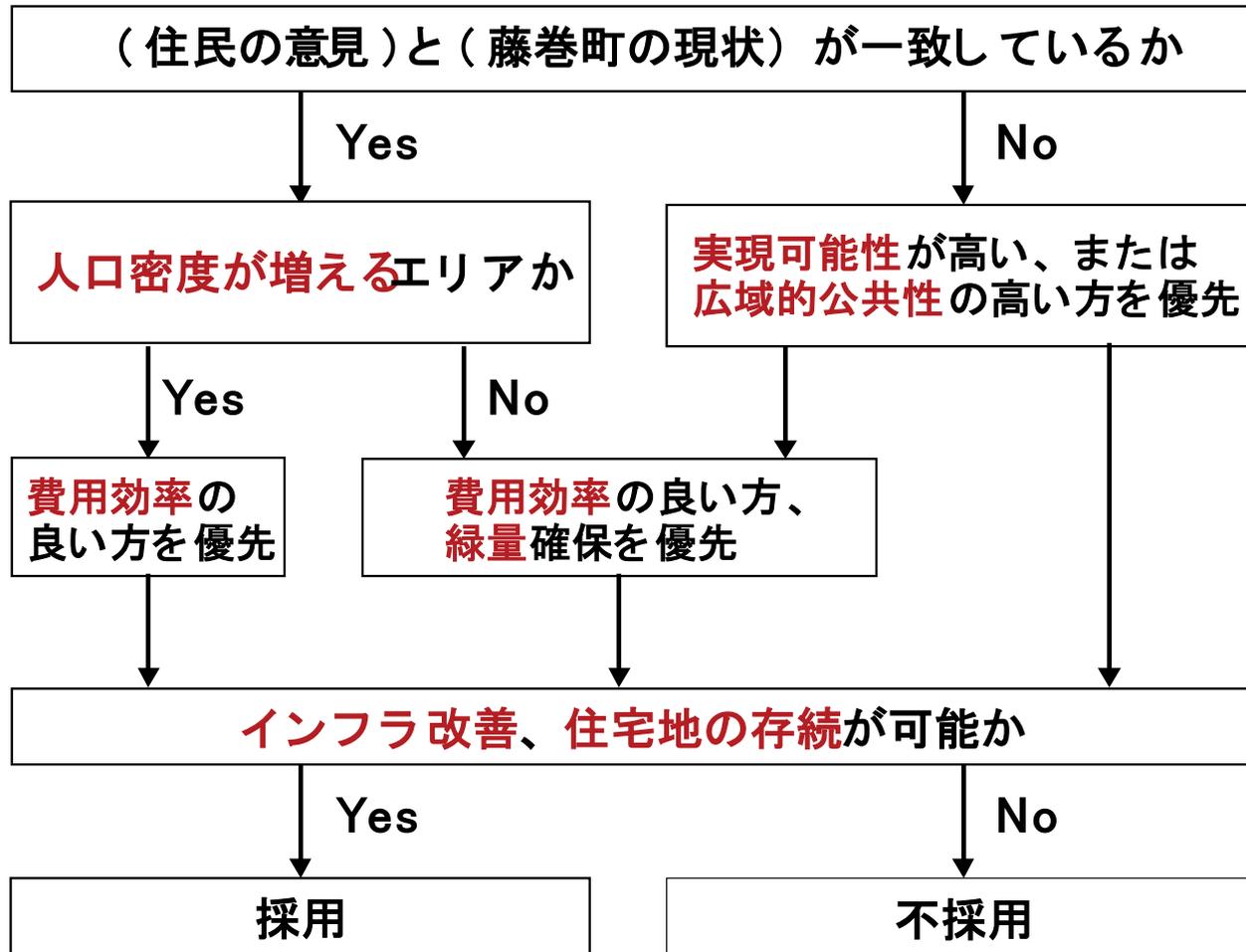
・自由懇談会にて住民の想定する将来の時期を把握し将来シナリオ作成時に考慮。

# 5-1. 将来シナリオの作成

## 5. 将来シナリオの作成と評価

### ■「望ましい案」作成作業フロー

⇒エリアごとに照らし合わせ、判断する。



# 5-1. 将来シナリオの作成

# 5. 将来シナリオの作成と評価

## ■具体的なシナリオ作成例 【望ましい案 [c]】

⇒藤巻町の現状(上表)と住民の意見(下表)を照合

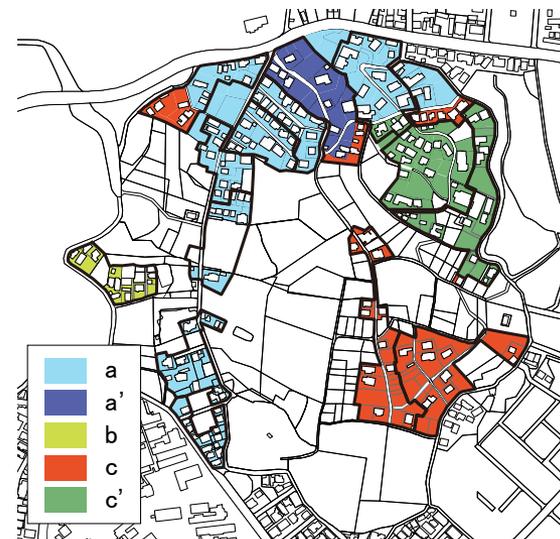
	組	9	11	12	14	15
	エリア			2A	4A	4B
現状	道路舗装	あり (一部なし)	あり (一部なし)	あり (一部なし)	なし	なし
	下水道	あり (一部なし)	あり (一部なし)	なし	なし	なし
	整備見込み	×私道	×私道	×私道	△(市道○、私道×)	×私道
	住戸密度	やや疎(空き地あり)	やや密	やや密	疎	やや疎
	周囲の緑の量	やや少ない	少ない	普通	多い	多い
	緑の類型	樹木 (高木あり)	樹木 (高木あり)	竹林+樹木 (高木あり)	公園管理地、樹木 (高木あり)	竹林、樹木

	組	9	11	12	14	15	
	エリア			2A	4A	4R	
組別説明会アンケート	[問1] インフラをどうしたいか	第1希望	道路・下水道整備(65%)	道路・下水道整備(100%)	道路・下水道整備(44.4%)	道路・下水道整備(66.7%)	道路・下水道整備(87.5%)
		第2希望	道路拡幅(35%)		現状維持(22.2%)	下水道整備のみ(33.3%)	下水道整備のみ(12.5%)
		第3希望					
		第4希望					
	[問2] インフラ整備が難しいときどうしたいか	該当者	出席者の17%	出席者の100%	出席者の77.8%	出席者の100%	出席者の100%
		第1希望	そのまま住む(100%)	そのまま住む(100%)	そのまま住む(85.7%)	そのまま住む(77.8%)	公園事業着手(75%)
		第2希望			公園事業着手(7.1%)	公園事業着手(11.1%)	そのまま住む(25%)
		第3希望			町内移転(7.1%)	町内移転(11.1%)	
	[問3] 人口密度をどうしたいか	第1希望	増やす(61.1%)	変えない(33.3%)	変えない(88.9%)	変えない(77.8%)	変えない(64.3%)
		第2希望	変えない(38.9%)	増やす(33.3%)	増やす(11.1%)	増やす(11.1%)	増やす(21.4%)
		第3希望		意見なし(33.3%)		意見なし(11.1%)	意見なし(14.3%)
		第4希望					
	[問4] 緑の量・緑に触れる機会をどうしたいか	第1希望	現状維持(77.8%)	現状維持(66.7%)	現状維持(55.6%)	現状維持(88.9%)	現状維持(77.8%)
		第2希望	増やす(22.2%)		増やす(44.4%)	増やす(11.1%)	減らす(22.2%)
		第3希望					
		第4希望					
[問5] 移行するタイミングをどうしたいか	第1希望	10年以内(44.4%)	希望なし(66.7%)	20年以内(44.4%)	希望なし(66.7%)	今すぐ(75%)	
	第2希望	今すぐ(33.3%)	今すぐ(33.3%)	希望なし(44.4%)	今すぐ(33.3%)	10年以内(12.5%)	
	第3希望	希望なし(22.2%)		移行しない(11.1%)		20年以内(12.5%)	
	第4希望						

公園区域内住宅地  
(環境共生インフラ整備)

人口密度 下げる

緑の量 増やす

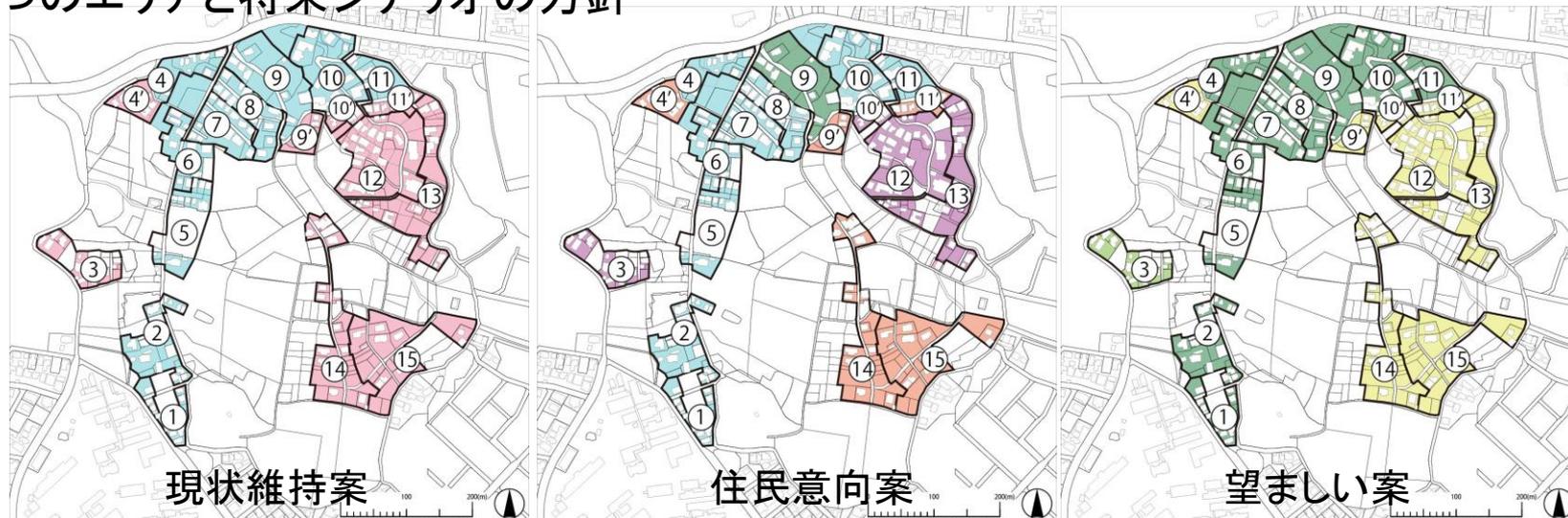


望ましい案(c)  
⇒Ⅶ 低密度環境共生型(里山)

# 5-1. 将来シナリオの作成

# 5. 将来シナリオの作成と評価

## ■5つのエリアと将来シナリオの方針



エリア 組	a 1 2 5 4 6 7 8 10 11	a' 9	b 3	c' 4' 10' 13	c 9' 11' 12 14 15	公有地 A (a,a',b 付近)	公有地 B (c,c' 付近)
現状維持案	<b>I 低密度都市型</b> ■インフラはそのまま維持 ●人口密度は変えない ▲緑の量は現状のまま		<b>III 低密度里山型</b> ■インフラ整備しない ●人口密度は変えない ▲緑の量は現状のまま				
住民意向案			<b>IV 低密度都市型 (下水道整備)</b> ■下水道のみ整備する ●人口密度は変えない ▲緑の量は現状のまま	<b>V 低密度都市型 (下水道・道路舗装整備)</b> ■道路舗装・下水道整備する ●人口密度は変えない ▲緑の量は現状のまま		■インフラ整備しない ▲緑の量は現状のまま	
望ましい案	<b>II 高密度都市型</b> ■インフラはそのまま維持 ●人口密度は増やす ▲緑の量は現状のまま	<b>VI 高密度都市型 (下水道整備)</b> ■下水道のみ整備する ●人口密度は増やす ▲緑の量は増やす	<b>VII 低密度環境共生型 (里山)</b> ■環境共生インフラを整備する ●人口密度は減らす ▲緑の量は増やす			●c,c' からの 移転先となる (土地交換) ▲緑の量は 現状のまま	

# 5-2. 将来シナリオの比較・評価

# 5. 将来シナリオの作成と評価

## ■3つの将来シナリオの評価

⇒広域的な視点で6項目ごとに評価する

		現状維持案	住民意向案	望ましい案
評価	インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ改善しない</li> <li>・住民意向に反しない(インフラ無くても住みたい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ改善する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ改善する</li> </ul>
	緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった緑は確保できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった緑は確保できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の量を確保する</li> <li>・c,c'は公園:里山としてまとまった緑を創出</li> </ul>
	人口密度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規居住者が増えず過疎化の恐れあり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規居住者が増えず過疎化の恐れあり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・a,a',bは増やし、都市環境を充実させる</li> <li>・c,c'は減らして低密度の里山を維持</li> </ul>
	費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ整備ないため費用は維持費用のみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラの整備費用が必要</li> <li>・維持面積が増加するため、維持費用も増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・c,c'は都市型インフラを整備しないため低コスト</li> <li>・bはインフラ整備するので少々費用が必要</li> <li>・公園として買収する面積が従来より少ない</li> </ul>
	実現可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を維持するだけなので可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(c,c')では私道所有者の理解が得られていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・bは整備見込みがある</li> <li>・c,c'は市が公園として買い上げたら整備可能</li> </ul>
	計画解除の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑が守られる保証がないため全域解除不可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑が守られる保証がないため全域解除不可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑量が確保でき、c,c'を公園として開放できるため、a,a',bが解除される可能性がある</li> </ul>
備考			<ul style="list-style-type: none"> <li>・私道の所有者の理解が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山として公園区域内に住める制度が必要</li> <li>・私道所有者の理解が必要</li> </ul>

⇒インフラ,緑,費用から、現状維持案・住民意向案では実現が難しく、  
望ましい案を実現するためには公園計画を縮小する必要がある。

## 6.総括

### ■住民主導のアウトリーチ活動（情報提供と意向収集） …2章・4章

- ・ 計画の初期段階でもアウトリーチ、その結果に基づく検討を進めることで、今後作成されるまちづくり構想・計画の妥当性・説明性・実現性が高まる。
- ・ 初めて住民がまちの将来について意思表示し、住民間で共有することが出来た。

### ■シナリオの作成・評価 …3章・4章・5章

- ・ シナリオ作成において、客観的な情報を踏まえ、名古屋市全体から見ても有益であると示すことは、市に都市計画変更の検討を提案する上で有用。
- ・ 住民の意見を全て採用することが住民の目標の達成に繋がることにはならない。
- ・ 理想のまちに移行するタイミングに関しては希望にばらつきがあるため、段階的な選択肢を提示することが重要。
- ・ シナリオを作成し、比較・評価することは、特に住民と行政の意向が一致しない場合の都市計画の見直しに、住民の意見が利己的でなく社会的な意思決定であるべきことを示すのに適切である。